

## 県内事業所 自動計測や工程管理

# 機能絞り低コストで効果

# 中小IoTじわり浸透

県内の中小・小規模事業所の現場に「IoT(モノのインターネット)」が普及してきた。大掛かりな設備投資や高度な知識を必要とせず、自動計測や工程管理などに機能を絞った手軽な装置が特徴。県工業技術研究所などの支援機関は事業者の意識の高まりを歓迎し、講習や相談業務を通じた啓発を強化している。



県内の中小・小規模事業所の現場に「IoT(モノのインターネット)」が普及してきた。大掛かりな設備投資や高度な知識を必要とせず、自動計測や工程管理などに機能を絞った手軽な装置が特徴。県工業技術研究所などの支援機関は事業者の意識の高まりを歓迎し、講習や相談業務を通じた啓発を強化している。

表は「高機能で高価な既存システムは合わなかった。機能をそぎ落としたのは現場を知っているから。捻出した時間は販路拡大や休みに充てたい」と話す。さまざまな産業にデジタル技術を活用する「第4次産業革命」の核とされるIoTは、規模が小さな事業者ほど導入が進んでいない実態がある。県工業技術研究所は「本格的な浸透はこれからだが、導入の機運は確実に高まっている」と(担当者)との認識だ。

関心の高まりを裏付けるように、同研究所が主導したセミナーは、機器代など2万円以上の自己負担が要るにもかかわらず、募集開始直後に定員に達した。受講した事業者はそれぞれの現場に収穫を持ち帰り、センサーによる機械の稼働率などのデータ収集に挑戦中。同研究所は講座を拡充して継続する方針を固めている。事業者支援に取り組む県よろず支援拠点の塚本晃弘チーフコーディネーターは「発想があれば低コストで高効率のIoTも実現できる。相談先が多く、センサーの価格も下がっている今は導入しやすい環境だ」と話す。(経済部・高林和徳)

石油製品販売の飯塚石油(静岡市清水区)は昨秋までに、工場やハウス農家など約10件の取引先の石油タンクに残量を確認できる機器を取り付けた。給油のタイミングをセンサー